

カバーで品質保持

八幡浜生コンマス・暑中コンで実績

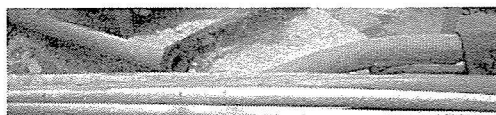
温度上昇抑制

愛媛県西部の八幡浜生コンクリート(八幡浜市)はマスコンクリートを豊富に出荷しており、その品質にも定評がある。

同社は夏期のマスコンクリート温度ひび割れ対策として、打設時のコンクリート温度30度以下を目標にしている。



全車にカバーを装着



配管に巻くタイプも採用

練混ぜ水には16度前後の地下水を使用して、この特長を最大限活かすため、品質保持カバー「HYBRID」をコンクリートミキサ車のドラムに装着する。カバーの遮熱効果に加えて、ドラムに地下水を散水。気化熱も利用することで温度上昇を抑制する。

また、同社は近年の高気温時でも、コンクリート温度上昇による品質の変化を最小限に抑え、高品質な生コンを提供するために、マスコンクリート以外の両に加え、応援車両にもカバーを装着することで、全ての車両で温度上昇が抑制でき、クーラーから高い評価を受けている。

出荷時には同社の全車両に加え、応援車両にもカバーを装着することで、全ての車両で温度上昇が抑制でき、クーラーから高い評価を受けている。

バーを常にドラムに装着している。

配管用で暑中対策

暑中コンクリート対策として、地下水を使用、またはチラーユニットで冷却する際、配管に直接巻くタイプの「HYBRID・配管用」を装着し、セメントサイロにも遮熱塗



大西課長

装を施すことで、練上がり温度を抑制する。練上がり後はミキサ車のドラムカバーの効果で、練上がり温度を荷卸し完了時まで維持できるとい

きるという。これらの方法を組み合わせることで、暑中期でも高品質な生コンを提供できる。同社の大西正臣課長によると、混和剤の効果も併せて、暑中コンクリート対策の品質試験を同社で実施し、実際に「HYBRID」の効果を確認されたという。